



針江生水の郷委員会

いつまでも青く輝く地球であるために
めぐり巡って来る、清い命育む生水を守り続けたい。

生水の郷委員会事務局
TEL/FAX 0740-25-6566
http://www.hariekabata.com
E-mail shozunosato@lapis.plala.or.jp

環境部から報告 高田 一雄



この美しい川の向こうには...
皆さんの「きれいにしよう」という思いがとどいています。
まちがいなく、すべての生きるものに息吹を与えているにちがいありません。

あいさつ 会長 山川 悟

先人の知恵と持続可能なエコシステムこそ針江の宝

針江区の皆様、平素から針江生水の郷委員会の活動に、ご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。針江大川を中心とする張り巡らされた水路に、水辺の生き物が四季を通じて巡っています。よく目を凝らしてみると小さな稚魚が行列をなして泳いでいます。

訪問者は、エコなカバタのシステムや水のきれいさはもちろん、飲めばまろやかな喉ごしに「すばらしい!」と絶賛されます。当たり前と思っていたことが、実は特別なことなのです。

最近特に海外からの取材が多くなっています。関西経済連合会から「関西が誇る4つのブランド」としてパネラー依頼がありました。関西連は4つのブランドの中の1つに”環境”を掲げ、針江を関西が誇る環境先進地と位置づけています。針江生水の郷委員会の活動報告、特に中島の掃除や海外から注目されていることの意義について発表してきます。

素晴らしい故郷の環境を守ろう

◆環境部の活動に対しまして、会員の皆様へ、ご協力を頂きながら進んでいることを、お礼申し上げます。

◆4月には竹やぶの清掃活動で廃竹を機械によるチップ化。6月には区との合同花苗植。少しですが花苗をお渡しできました。

7月には、大川下流中島の藻刈りと柳枝切りで2回。5月の区大川掃除の時、房藻の繁茂により1m程に狭くなった所に、藻上げ場で流れ流れた藻が多量に中島にとまりました。区役員の方が処理されたこともあり、川掃除前に区役員の方と合同で行いました。当日は船を三隻使い、船上からと房藻の上に敷いた板に乗り、沈みながらの作業、大勢の方のお力、ボランティアも含め70名により、水路を広くすることが出来ました。積み出した藻の量は後日行った柳の枝を合わせるとダンプトラック約20台にもなりました。今後の課題も残りますが、作業を無事終えることができ、ありがとうございました。

作業前に見つけたカイツブリの抱卵、無事にかえったヒナ鳥も後日親鳥と元気に泳いでいました。中島に暮らす水鳥を守りながら藻刈りを終えられ、カイツブリ親子からの感動と、自然のすばらしさを体験できました。ご参加ありがとうございました。

4月12日	竹やぶの手入れ 廃竹チップ化
6月28日	花の苗植え区と合同綿の苗他
7月12日	中島藻刈り区と合同・県外ボランティア参加
7月26日	中島柳の枝切りフランスのTV局取材



藻刈り



綿の苗



かいつぶり

◆最近、針江区内を歩いていると、とても町並みや風景が、美しくなりました。

一人ひとりの手をかりて、大粒の汗をかきながら、案内や整備・保全に労を惜しむことなく、がんばっておられる区民の皆様のすがたには、本当に頭がさがります。ありがとうございます。

区民がさりげなく、あたたかく、日々の生活が無事平穏に過ごせること、幸せなことです。針江の「人や生き物にやさしいコミュニティ」いつまでも残したいですね。



やなぎの枝切り



竹やぶの手入れ



花苗植え

お知らせ

海外からも注目
海外の取材

7月26日 フランス国营放送



◆フランス公共テレビ、フランス3では、様々な外国を紹介する人気番組”Faut pas rever”(フォー・パ・ンヴニ)のために、日本特集を取材。毎日曜日 20:35 から 2 時間の番組で、毎回一つの国を選び、その国を 10 本ほどのレポートにより、様々な角度から紹介する番組です。

今回はその中のひとつとして、琵琶湖の水をうまく利用し、自然とともに生活し続けている新旭・針江の様子を取材。特に住人の方々が皆さんで行う、伝統的な水路の清掃の様子を是非とのことで、撮影にこられました。再度 8 月末にも撮影。
※フランス3は、日本には支局がなく、韓国からレポートに來られます。

7月30日
31日
韓国プライム放送



韓国プライム放送
◆3部作「地球の静脈 下水道」

生命の水流でありながら人類最大の偉大なる発見と言える下水道。下水道設備の不備により水因性疾病は、上・下水道の整備で解決できた。

これからは、水が富になるという意味で、ブルーゴールドの時代が渡来すると専門家たちは予見する。

当番組では、パリ、ローマ、シンガポール、日本の針江などの事例を通して、水の循環やきれいな水を保つために努力をする取り組みと水文化を紹介し、新しいビジョンや政策への方向を提案する。

カバタ本完成間近



農林省・文部科学省・総務省
高島市モデル地域に
「子ども農村漁村交流プロジェクト」
選定される。針江のかばたも含まれる。



ほのぼの日記

Harie 野生の生き物



いい臭いがするぞ



ここが良いかな

針江には実にたくさんの生き物が住んで居ます。

一見、水と関係ないと思われる生き物もご紹介します。

大川の水を飲みにか、魚がお目当てだったのかわかりませんが、宮さんの前の大川の石段から上がってきました。先ほどまで中央公園の鯉や水車の撮影を終えて帰る時にこれと出くわしたのです。

このイタチは人里に慣れているのか、私に気づいていたのに、カメラを向けても動じず、マイペースで何かを探して居るようでした。

家の天井裏に住み着いていると何とも腹立たしいのですが、ここで出会うと仕草がユーモラスで可愛いですね!

6月に入り、毎朝のようにトビの鳴く声で目覚めます。

テレビアンテナや電柱の上で、「ピーヒョロロロロー!」と高いハスキーな声でひなたちに さっ、ここまで飛んできて頂戴!とせかしているように聞こえます。

この日は生憎小雨模様で 2 羽の雛たちの羽根は雨でぐっしょり濡れて 飛ぶことができないようです。それでも親鳥は石津寺の前に作った巣と近くの電柱を 行ったり来たり何度も何度も飛び続けていました。7 月に入ったある日雛たちは巣から少し離れた木の枝に留まって、親鳥の帰りを待ちわびて居るように、ピーヒョロロロロ! ピーヒョロロロロ! 寂しそうに聞こえてきました。

ここは綺麗な水がたくさんあるからいろんな生き物が集まるのですね! 生命の源の水が豊富であることは幸せなことです。(S.M)



トビのひな



トビの親?

◆大川に魚をねらっているアオサギもそばに近寄っても逃げないし、蝶も花にのぞきこんでも逃げない。なんて言うのかな...?! そこに住んでいる人と生き物が信頼しあっているのかな。いいことですね。

編集子のつぶやき ☺

来訪者の感想

8月5日レイク琵琶21



「古くから続く暮らしと水の関わりが、今も変わらず価値づけられていることに興きを感じました。

また、地域の方々が地元環境や取り組みを誇りに感じていらっしゃることがとってもステキでした。

平山奈央子(彦根市 27歳)

「農業、サービス業、大学やNPO関係者など、様々な立場の人たちが、それぞれの視点で針江を堪能されていたように思います。

また、はじめて来た方も、何度も訪れた方も、同じように新しい発見があったようです。僕も寄せていただく度に、本当に魅カイヤイの場所だなと思います。」

高田拓朗(高島市 26歳)

